

三栖右嗣

廻る季節と共に
人は生きてきた

春・夏期展示

2023

3月14日(火) - 9月10日(日)

裏窓(上海) 油彩 10号 1980



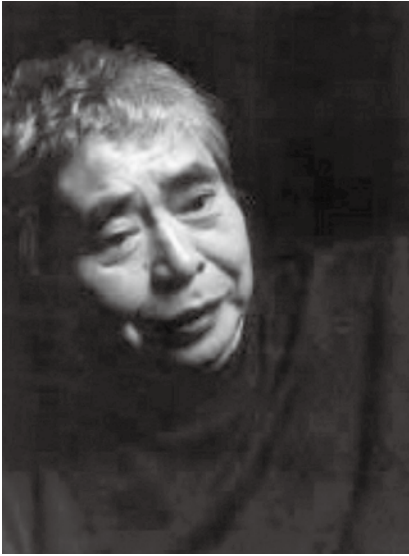
ヤオコー川越美術館

Yaoko Kawagoe Museum

三栖右嗣記念館

Yuji Misu Memorial Hall

画家が語る



撮影 秋山庄太郎

『何かテーマを選ぶ、モチーフを選ぶ、そうすると僕は常に人に語りかけているところがあるの。…どうだい、この空の空間、手が入りそうだろう。この晴れた空の色はなんとすばらしいだろう、というように常に会話しているのね。…全然知らない人で、絵にたいして興味のない人が僕の絵を見て、僕が考えていたのと同じことを言ってくれることが時々あるけど、ゾッとするほど怖いね。』

『花も、実も、海も、いのちあるものとして私をとらえる。原色の花々は、南国の灼熱の暑さの象徴であり、人生に置きかえれば活力に満ちた季節を思わせる。二度と巡って来ないいのちを燃やせ、燃えつくせ、という思いを塗り込めて私は描く。熟れた林檎の、その真赤ないのちが陽光に輝き、つめたい初冬の野の姿を私は好む。熟れ切って今を盛りのリンゴ達もやがて枯葉と共に土に還りまた新たな芽ばえとなるであろう。そして、人もまた老いて身は朽ちるともそのひたむきな生きざまはその息子達の心の深底に根をおろすことを信じる。いずれも生命と言ふテーマが私にとっては共通するものなのである。』

『母の生きざま、これは半生の最大のテーマであり、モチーフでした。でも母を描くには勇気がいり、容易に非情になりきれず一日延ばしにしていました。死ぬ三ヶ月前にエチュードを描きました。着ているものを一枚一枚脱がせました。母は私の持つすべてを出させてくれました。実に素晴らしい対象でした。』

『僕の場合、素材が裸婦でも花でも風景でも、共通したものを感じるので意識の上では、特別に変わりません。りんごを描いても、人間を描いても、すべての虚飾を取り去った大自然そのもの、生命のドラマを感じるのです。その味わいや深さ、驚きなどは同じです。』

今春で開館11年目を迎えました。
この間、美術館も様々な季節と共に歩んで参りました。
前庭の桜はコロナ禍なぞどこ吹く風とたくましく枝を広げ、美術館に明るい彩りを添えております。
今回は、自然界に廻る季節と人生の季節を重ね合わせ三栖が終生にわたり描いた自然と人間像をテーマに展覧致します。
是非ご来館頂きたくご案内申し上げます。

ヤオコー川越美術館

『苛酷な自然との戦いに逞しさを身につけ 自然の怒りに恐れを知り 恵みに愛を知り やさしさを知る 人智の掟ではなく 理窟抜きの自然との会話のなかに 自然の摂理と共に人生があると云う原始を見るから そんな生きざまを私はいとおしく思う』

『絵画を自己表現の手段とすると、具象表現の中には抽象性も、象徴性も、幻想性も勿論包含されていると思う。本来人間にはこれらの感性は共存しているものだからと考える。従って同一作家が或る時、或る時期に抽象画を描き、亦或る時、或る時期に写実画を描くことは極めて自然なことであると思う。私も具象画家と云う判で押した様な決めつけられた分類には賛成しかねるし、具象作家たらんと固執する気は無いのである。私の現在は、悦び、悲しみ、祈り・・・と云った人間が抱き、或いは背負って行く共通の感情を、表現形式、方法はともあれ表現したいと考えている。』

謙虚さを知る 亦 その豊かな



自画像のためのデッサン 鉛筆 1950

三栖 右嗣 春・夏期 展示

廻る季節と共に 人は生きてきた

2023年3月14日(火)ー9月10日(日)



ラウンジ展示 爛漫 油彩 500号 1996

三栖 右嗣 略歴

- 1927(昭和2) 神奈川県に生まれる。
- 1952(昭和27) 東京藝術大学(安井教室)卒業。
- 1955(昭和30) 一水会に『室内』で初出品。
- 1972(昭和47) アメリカの画家アンドリュース・ワイエスを訪ねる。
- 1975(昭和50) 沖縄海洋博覧会「海を描く現代絵画コンクール」で大賞受賞。
- 1976(昭和51) 第19回安井賞展に『老いる』を出品、安井賞受賞。
- 1979(昭和54) 個展(クライスラー画廊 スペイン・マドリッド)
- 個展(上野 松坂屋)
- 1985(昭和60) 個展(新宿 伊勢丹美術館他)
- 1991(平成3) 個展(日本橋三越他)
- 1996(平成8) 『爛漫』(500号)を制作
- 2010(平成22) 4月18日逝去
- 2012(平成24) ヤオコー川越美術館(三栖右嗣記念館) 開館

ご利用案内

- 入館料
 - 一般 300円(入館料+飲物セット 500円)
 - 高校生・専門学校生・大学生 200円
 - 中学生以下(団体の引率者含) 無料
 - 団体(20名以上) 各100円引
 - 障がいのある方と介助者1名(手帳提示) 無料
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)
- 開館時間 午前10時~午後5時(入館は午後4時30分迄)
- 駐車場 15台
- お問い合わせ先 049-223-9511
- 〒350-0851 埼玉県川越市氷川町109-1
- ホームページ: <http://www.yaoko-net.com/museum/>
- E-mail: info-museum@yaoko-net.com



ヤオコー川越美術館
Yaoko Kawagoe Museum
三栖右嗣記念館
Yujii Mitsu Memorial Hall

埼玉県川越市氷川町109-1 TEL 049-223-9511



交通のご案内

- JR・東武東上線「川越駅」東口ー東武バス⑦番乗り場
埼玉医大・上尾駅西口・平方・川越運動公園行き「川越氷川神社」下車
- 西武新宿線「本川越駅」ー東武バス⑤番乗り場
埼玉医大・上尾駅西口・平方・川越運動公園行き「川越氷川神社」下車
- 小江戸巡回バス
JR・東武東上線「川越駅」西口ー②番乗り場「氷川神社前」下車
西武新宿線「本川越駅」ー小江戸巡回バス乗り場「氷川神社前」下車
- 小江戸名所めぐりバス
JR・東武東上線「川越駅」東口ー③番乗り場「川越氷川神社」下車